

患者さまへ

「門脈気腫患者の院内死亡に関連する予後因子の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

| | |
|---------------|---|
| 1 研究の対象 | 2010年8月より2024年8月までに湘南鎌倉総合病院においてCT画像検査を受け、肝臓やその周囲の血管に空気が入り込んだ状態(以下:門脈気腫)と指摘された患者さまを対象とします。 |
| 2 研究目的・方法 | これまで門脈気腫は死と直結する危険な状態として認識されてきました。しかし近年検査機器が普及し発見率が増えたことから、自然に軽快する例が見られるようになりました。以前の報告では、腹水、腹膜に炎症が及ぶと見られる腹部の診察所見(以下:腹膜刺激徴候)、ショックのない患者さまでは、自然に改善することが多いとの報告があります。本研究ではこれら3つの他に、新しく消化管手術歴が関与するかも含めて、門脈気腫の自然改善につながる因子を検討します。 研究の期間:施設院長許可(2024年8月予定)後~2025年12月 |
| 3 情報の利用拒否 | 情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。 |
| 4 研究に用いる情報の種類 | 年齢、性別、腸管手術と既往歴、腹膜刺激徴候の有無、腹水の有無、バイタルサイン(血圧など)、入院日数、血液検査項目 等 |
| 5 お問い合わせ先 | 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 鎌口 清満 湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科・集中治療科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717 |

2024年7月17日作成(第1.0版)